

平成26年12月 データから見た業界の動き

■ 概 況

約5年ぶりの原油価格の急落により石油製品の小売価格が値下げとなったことにより中小企業にとって好材料となった。

しかし、円安による原材料の高騰、電気料金の値上げ、技術労働者等の不足による人件費の増加、仕入価格や製造コストの上昇分を価格転嫁できず体力の弱い中小・小規模企業の経営環境はますます悪化している。

衆議院選挙の結果、今後もアベノミクスが継続されることから中小企業への支援策に期待が高まっている。山梨県内も中部横断自動車道やリニア中央新幹線工事等の公共工事の進展に、建設業界を中心に景気回復への足がかりになればとの期待が高まっている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品 (水産物加工)	お歳暮関連は横ばい、おせち関連商品は前月の反動により減少したが、生鮮食材が伸長したため全体の売上は前年同月比101%。
食料品 (洋菓子製造)	自社製品による輸出や冷凍ケーキ、デパート関連商品ともに好調、OEMは新製品の投入が奏功し売上は前年同月比111%。
繊維・同製品 (アパレル)	全体的に婦人服の売上が落ち込んでいる。
木材・木製品製造	消費税率引き上げに伴う需要減は予想以上の減少で一時的に前年対比50%程度落ち込んだ。
窯業・土石 (砂利)	主な取引先は生コン会社になるため、土木・建築関連の工事の増減が収益の増減に繋がる。特に大規模な公共工事の有無は、景気の動向に大きく影響する。現在は、中部横断自動車道建設工事の進捗状況によるところが大きいいため、公共工事等の少ない地域の経営状況は厳しい。
窯業・土石 (山砕石)	H25～26までは年末から年度末にかけて公共事業が集中し、需要が見込まれた。しかしH26の11月以降は前年を下回る出荷状況であり、地方には景気回復感は感じられない。
鉄鋼・金属①	電子機器関連は、横ばい。
鉄鋼・金属②	昨年同期に比べ悪い状況。
電気機器	短納期、コスト高により相変わらず厳しい状況が続いている。受注が下半期に集中しているため、人手不足や材料等の調達ができるか懸念している。
電気機器	消費税率引き上げに伴う受注減が未だ続いている。
その他(宝飾)	停滞ムード。

● 非製造業

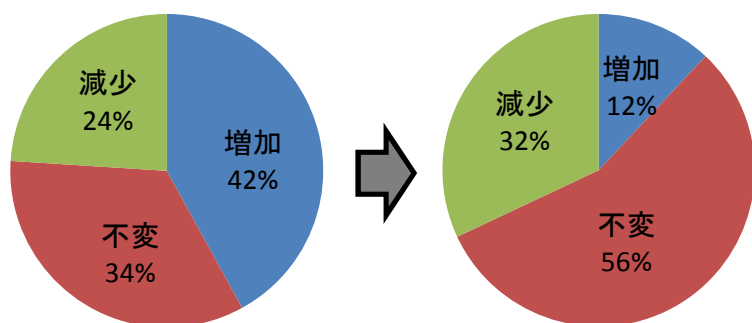
卸売（ジュエリー）	消費税率の引き上げにより売上不振が続いている。材料のほとんどが輸入のため円安の影響が大きく、販売不振に加えて原材料のコストアップが価格転嫁できず厳しい状況が続いている。
小売（青果）	野菜類の販売数量は増加したが、果実販売が低迷し全体的に収益は悪化した。
小売（食肉）	売上、来客数ともに昨年並み。しかし、仕入れコストが15%上昇している上に原料が不足しているため、売価を値上げしても収益には繋がらない。
小売（水産物）	年々、市場での買付量と金額が減少している。また、組合員の高齢化、後継者不足、仕入価格や電気料等の経費増により組合員の転・廃業による脱退者も増加。
小売（自動車）	昨年は消費税率引き上げによる駆け込み需要があったため、売上の前年同月比は下回った。しかし、新型車の発売により新車利益率の改善から好転傾向にある。
小売（電機製品）	太陽光発電関係の受注減も重なり地域店の売上は大幅に落ち込んだ。しかし、年末需要と4K・8Kの導入が重なりテレビは復調傾向にある。
小売（石油）	円安が進む中、それを上回る原油価格の大幅な値下げにより石油製品の卸売価格が値下げしたため、県内給油所の販売価格も10円程度下落した。
商店街(1)	11～12月に飲食店2軒、靴店が新たに開店したため、街に賑わいが増した。
商店街(2)	物販は持ち直しつつあるが、依然として低迷状態からは脱出できず苦戦している。
商店街(3)	ポイントシステムを刷新したことにより来街者数が増加した。また、来街車等に利用される組合駐車場は値上げしたにもかかわらず利用率が上がり売上全体が好転した。
不動産取引	東京や神奈川から賃貸物件の問い合わせが多い。
宿泊業(1)	12月は衆議院選挙等で人の動きが鈍くなり、前年より収益が減少した。年末年始の宿泊も休日が長いわりには満室になる日が少なかった。
宿泊業(2)	円安の好影響を受けて宿泊客は増加している。ツアーバスによる短期型から個人や小グループでの長期滞在型になるよう旅行会社に対し提案を行っている
警備業	公共工事が年度末に集中するため警備員需要が安定しない。
建設業（総合）	12月の県内公共工事動向は、件数で5%、請負金額で13%増加した。4～12月までの累計では、件数は減少したが請負金額はわずかに増加した。
建設業（住宅関連）	仕事量に対し職人数が不足している。この状況がしばらく続くと予測する。
建設業（型枠）	工事単価は上昇したが円安のため型枠材料が大幅に値上がりした上、職人の確保による人件費も値上がりし厳しい1年になった。
建設業（鉄構）	仕事量は確保しているが、県外の物件が多くを占めている。
設備工事（電気工事）	工事発注が大幅に減少しているため、価格競争が起こりつつある。また、忙しく人手不足の企業と仕事がない企業の二極化が進んでいる。
設備工事（管設備）	住宅建築工事等の民間事業の回復の遅れから、売上の減少傾向が続いている。公共事業の前倒し効果も大手企業にとどまり、中小企業の改善まではいかない。
運輸（タクシー）	年々、忘年会をする企業等の減少からタクシー利用者も減少している。
運輸（バス）	仕事量は減少したが、新運賃制度により単価の上昇分が利益となった。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2013/12	2014/11	2014/12	2013/12	2014/11	2014/12	2013/12	2014/11	2014/12
売上高	10	-5	-15	23	-10	-23	18	-8	-20
収益状況	-10	-10	-15	-23	-17	-13	-18	-14	-14
景況感	-5	-35	-35	3	-23	-23	0	-28	-28

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高（前年同月比）

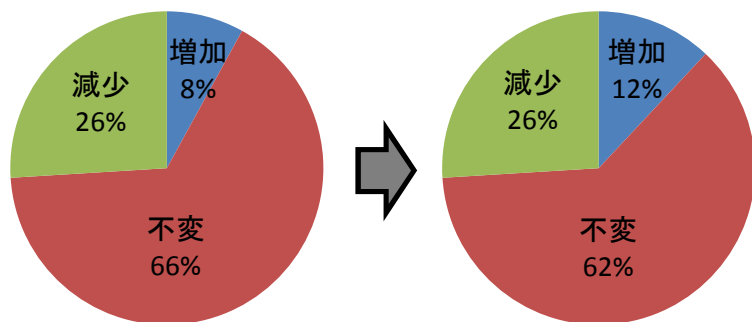


平成25年12月

平成26年12月

- ・ D I 値▲20（前年同月比▲38）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲15（前年同月比▲25）
 - 非製造業 ▲23（前年同月比▲46）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 10ポイント悪化
 - 非製造業 13ポイント悪化

収益状況（前年同月比）

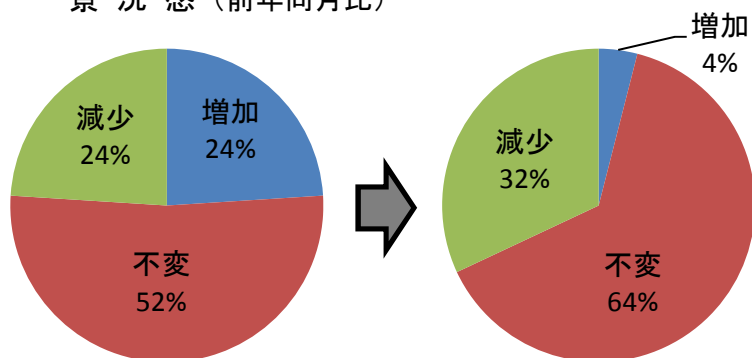


平成25年12月

平成26年12月

- ・ D I 値▲28（前年同月比▲28）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲35（前年同月比▲30）
 - 非製造業 ▲23（前年同月比▲26）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 5ポイント悪化
 - 非製造業 4ポイント改善

景況感（前年同月比）



平成25年12月

平成26年12月

- ・ D I 値▲26（前年同月比▲14）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲35（前年同月比▲25）
 - 非製造業 ▲20（前年同月比▲7）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 ±0
 - 非製造業 ±0